

8. 河川現況

8-1 治水

項目	現 状
人口（資産）集中	釧路川水系の想定氾濫区域のうち、資産の約 90%が、下流域の低平地に集中しているため、ひとたび大きな出水により氾濫が生じると、その被害が大きなものとなる。
河道断面積	オソベツ川合流点上流区間など、洪水の流下に必要とする河道断面積の小さい区間は、洪水時水位上昇による外水氾濫の危険性が高い状況にある。
河道内樹木	オソベツ川合流点上流区間など、河道内に洪水の流下に支障となる樹木の多く繁茂している区間は、洪水時水位上昇による外水氾濫の危険性が高い状況にある。
堤 防	オソベツ川合流点上流区間など、氾濫防止上堤防を必要とする区間の約 4 割が、無堤もしくは暫定堤である。この区間は、洪水時において浸水および越水・漏水等による破堤の危険性が高い状況にある。
内水排除	釧路川水系における樋門樋管の 1 割強が、排水能力不足や老朽化など治水上の機能に不備がある。この地点では、内水氾濫の拡大や、老朽樋門樋管部が堤防の弱点となり破堤の原因になりやすいなどの状況にある。
河岸浸食	オソベツ川合流点上流区間など、蛇行部の水衝部など河岸の浸食を受けやすい区間は、堤防崩壊などによる洪水被害の拡大しやすい状況にある。釧路川水系における河岸浸食対策としての護岸整備は、事業区間河岸延長の約 2 割に対して実施している。
河床の安定	河口付近の河床上昇やオソベツ川上流区間の河床低下（最大で 2.3m / 10 年のペースで低下した区間あり）など、河床高の経年変化が確認されている。河床高の経年変化については、河床低下が過度に進んだ場合は河川構造物の基礎部洗掘による崩壊の危険性が高まり、河床堆積が過度に進んだ場合は流下能力不足をきたすなどといった問題を生じさせる。
橋 梁	釧路川水系において、洪水流のスムーズな流下のために定めた規格に準拠していない橋梁が 7 箇所存在する。規格外橋梁の上流側一定区間ではその影響を受け、洪水時の水位上昇による外水氾濫の危険性が高い状況にある。

8-2 利 水

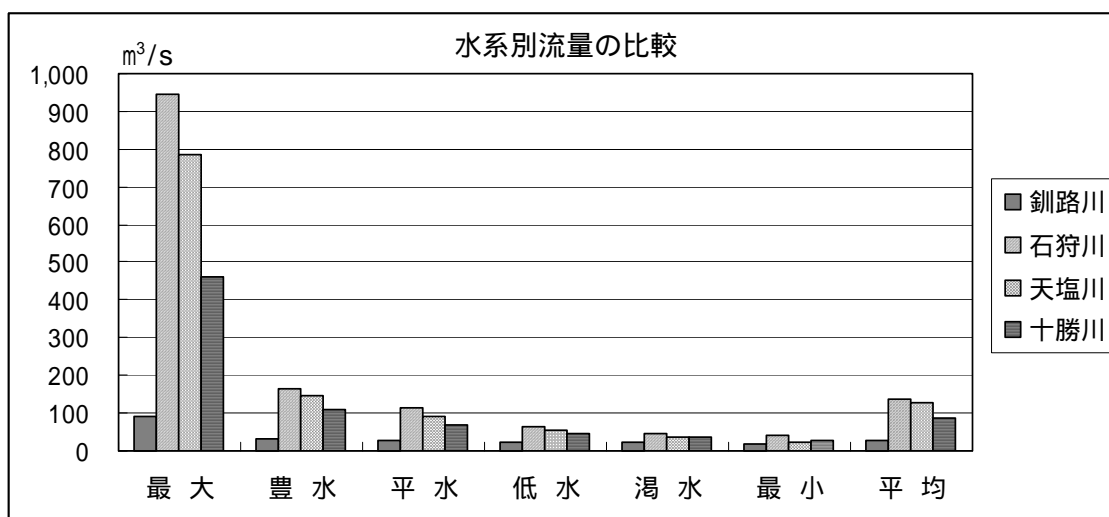
項 目	現 状
水 量	・ 釧路川は屈斜路湖と釧路湿原の 2 つの水がめを有していることもあり、道内他河川と比較し、流況は安定している。
水 質	・ 道内主要河川と比較し、PH・DO はほぼ同程度の値を示すが、BOD・SS・大腸菌群数は比較的良好である。
水 利 用	・ 上水道は釧路市が主に河川水を利用しているほか、他の町村は伏流水・地下水等も利用している。 ・ 釧路川流域は農業用水等の水利用が少なく、取水堰やダムの無い河川である。

水系別流量一覧(平成 12 年)

[単位:m3 / S]

河川名(主要調査地点名) 〔流域面積: km2〕	最 大	豊 水	平 水	低 水	渇 水	最 小	平 均
釧路川(瀬文平橋) 〔2,510〕	89.43	30.36	25.22	22.47	20.76	18.77	27.44
石狩川(石狩大橋) 〔14,330〕	945.13	162.92	112.24	64.43	47.86	42.23	138.10
天塩川(中川捕獲場) 〔5,590〕	785.58	145.09	89.41	55.90	36.68	21.99	128.48
十勝川(茂岩橋) 〔9,010〕	459.66	111.21	69.14	45.90	38.47	29.23	85.04

[出典:平成 14 年 河川便覧]

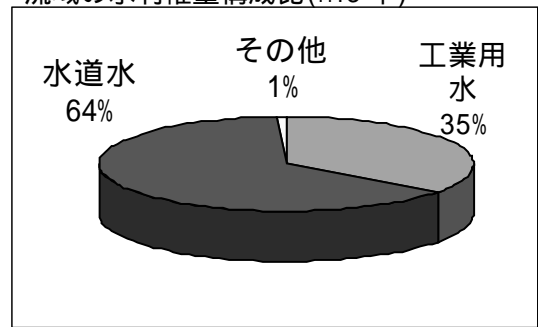


[出典:平成 14 年 河川便覧]

水系別水質一覧(平成 12 年)

河 川 名	PH (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)
釧 路 川	7.5	0.9	7.0	11.7	7.5 × 1,000
石 狩 川	7.3	1.3	35.0	11.3	1.7 × 10,000
天 塩 川	7.3	0.8	19.0	11.3	4.0 × 1,000
十 勝 川	7.3	1.5	13.0	11.5	1.1 × 10,000

〔出典：平成 14 年 河川便覧〕
流域の水利権量構成比(H13 年)



〔出典：平成 14 年度 水利権調査〕

水利権

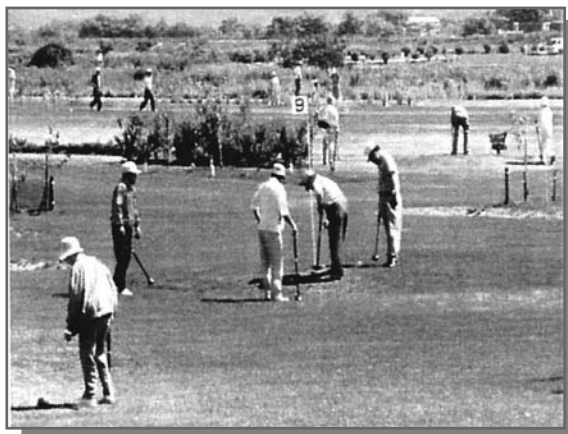
- 取水量としては水道水が最も多く、次いで工業用水である。

8-3 環 境

項 目	現 状
貴重な動植物の保全	釧路川流域では特別天然記念物のタンチョウをはじめ、多くの貴重な動植物種が確認されている。これら貴重な動植物種については、生息環境の保全を考慮しなければならない。
生物の生息・生育環境の維持	動植物の生育・生息環境の保全を考慮する必要があり、河跡湖や旧河道は、水生植物やトンボ類の重要な生息環境となっている。
湿原の保全と再生	釧路湿原では、ハンノキ林の拡大、土砂流入、農業排水など多くの問題を抱える。現在、湿原の保全・再生のための対策として、具体的な目標をかかげ、各地に調査地を設けて各種試験・調査が行われている。
漁業資源である魚類の保全	釧路川流域ではサケ・マス、シヤマモなどを対象に増殖事業が実施されていることから、これらの魚類に配慮する必要がある。また、釧路市及び釧路町周辺、標茶町の塘路湖及びシラルトロ湖では内水面共同漁業権が設定されており、配慮が必要である。
親水空間の創出	地域住民の理解は、釧路湿原の良好な河川環境づくりに欠かす事ができない。更なる地域住民による活動の支援や、河川とつきあう場を構築する必要がある。また、近年、カヌー等で釧路川流域を利用する人が増加しており、環境に対する負荷が心配される。下流域では、親水空間の整備が求められている。
水環境の保全	近年、湿原流域の水質は全窒素が増加傾向にある。そのため、水環境を保全するためには窒素負荷量の削減が必要である。また、地下水は湿原の生態系と密接な関係があるにもかかわらず、その状況についての資料はほとんど整備されていない。

8-4 交 流

釧路川の河川敷地は釧路市や標茶町の緑地公園をはじめ、水郷公園(弟子屈町)カヌーポート(標茶町)等が整備されている。
特に釧路川河川緑地は規模も大きく、釧路市街地に隣接する左右岸の河川敷地に広がり、パークゴルフ広場のほか野球場やサッカー場、休憩広場が整備され、地域住民を中心にパークゴルフやカヌー下り、学校行事(写生会)等で利用されている。



釧路市:河川緑地公園内パークゴルフ広場



釧路市:ぬさまい広場及び物揚場(写生会)